

第 6 回

熊本県議会

国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成28年2月22日

開 会 中

場所 第 1 委 員 会 室

第 6 回 熊本県議会 国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成28年2月22日(月曜日)

午前9時59分開議

午前10時50分閉会

本日の会議に付した事件

- (1) 2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件
- (2) ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件
- (3) 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件
- (4) 共通
- (5) 2015女子ハンドボール世界選手権デンマーク大会視察報告
- (6) 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- (7) その他

出席委員(15人)

委員長 溝口幸治  
 副委員長 田代国広  
 委員 氷室雄一郎  
 委員 藤川隆夫  
 委員 荒木章博  
 委員 重村 栄  
 委員 西 聖一  
 委員 早田順一  
 委員 高野洋介  
 委員 濱田大造  
 委員 橋口海平  
 委員 河津修司  
 委員 松村秀逸  
 委員 中村亮彦  
 委員 松野明美

欠席委員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

商工観光労働部

部長 高口義幸

政策審議監 奥 菌 惣 幸

観光経済交流局長 小原雅晶

観光課長 満原裕治

国際課長 磯田 淳

くまもとブランド

推進課長 成尾雅貴

教育委員会

教育理事 金子徳政

教育政策課長 田村真一

体育保健課長 平田浩一

総務部

人事課長 青木政俊

企画振興部

地域・文化振興局長 山本國雄

地域振興課審議員 小牧裕明

健康福祉部

障がい者支援課長 井上康男

土木部

道路都市局長 手島健司

都市計画課審議員 緒方 誠

警察本部

警務課長 林 修一

交通規制課長 木庭俊昭

総合企画室長 井野新輝

事務局職員出席者

政務調査課主幹 松野 勇

政務調査課主幹 法川伸二

午前9時59分開議

○溝口幸治委員長 それでは、ただいまから第6回国際スポーツ大会推進特別委員会を開

会いたします。

なお、本委員会に2名の傍聴の申し込みがあつておりますので、これを認めることといたします。

それでは、審議に入ります。お手元に配付しております本日の次第に従い、まず執行部から説明を受け、その後、質疑は議題ごとに行いたいと思います。

それでは、説明をお願いいたします。

○満原観光課長 満原でございます。よろしくをお願いいたします。

本日は、女子ハンドボール世界選手権デンマーク大会の視察及び前回以降の取り組みにつきまして御報告させていただきます。

前回以降の取り組みなどにつきましては、アンダーラインを引いておりますので、その資料に沿って説明させていただきます。

まず、2019女子ハンドボール選手権熊本開催関係について御説明いたします。

特別委員会資料の6ページをお願いいたします。

PR活動につきましては、これまで日本ハンドボールリーグの岡山大会、熊本大会などで行っておりまして、3月には東京で開催されるプレーオフで実施することといたしております。

また、ハンドボール教室を開催する予定です。今後とも各種イベントや行事にあわせまして、集中的なPR活動に取り組むことといたしております。

デンマーク大会につきましては、日本開催の前々回大会となります。今後の開催準備の参考とするため、昨年12月4日から23日まで、3班に分けて4つの全ての会場都市及び会場について視察を実施いたしております。詳細につきましては、後ほど御報告させていただきます。

7ページをお願いいたします。

今後のスケジュールにつきましては、3月

1日に国会議員の超党派ハンドボール振興議員連盟のデンマーク大会視察報告、翌2日に国への大会PR活動を行うことといたしております。3月15日には組織委員会の第2回理事会を開催する予定としております。

女子ハンドボール世界選手権大会関係の説明は、以上でございます。

次に、ラグビーワールドカップ2019熊本開催関係について御説明いたします。

14ページをお願いいたします。

3月にラグビーの教室を開催する予定でございます。

また、4月にラグビー・ワールドカップ・リミテッドと組織委員会による現地視察が予定されています。この視察を受けまして、どのようなスタジアムにするか、費用対効果も検討しながら、どのような取り組みが重要か、組織委員会と慎重に協議してまいります。

続きまして、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会関係について御説明いたします。

19ページをお願いいたします。

東京オリンピック・パラリンピックの参加国との人的、文化、教育などの交流を進める国のホストタウンに、この1月登録を受けました。

20ページをお願いいたします。

交流の相手国はインドネシアで、今後バドミントンを通じましてジュニア選手の交流などの実績を積み重ねながら、キャンプ地としての熊本の信頼と評価を得るための活動を進めてまいります。

次に、今後のスケジュールについて御説明いたします。

ことし2回目となりますが、3月に事前キャンプ地候補地ガイドラインへの掲載を申請する予定であり、市町村に対してその意向を確認しているところでございます。

また、関係競技団体に、ガイドライン申請

に必要な施設面での確認を行っています。その上で、市町村と競技団体の要望とのマッチングを図り方向性を整理していきたいと考えております。

2020東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致関係の説明は、以上でございます。

次に、国際スポーツ大会を契機とした地域活性化についてです。

資料の24ページをお願いいたします。

これまで御説明しました3つの審議事項に共通する国際スポーツ大会を契機とした地域活性化について御説明いたします。

このイメージ図は、6月の委員会で提出したものでございます。

国際スポーツ大会や関連の事業を一過性のイベントで終わらせることなく、国際スポーツの力を熊本の幸せ実感づくりをさらに加速するために活用したい、そのためには大会の成功はもちろん、次世代に引き継がれる有形・無形の熊本の財産、いわゆるレガシーの形成が重要と考えております。各分野での実践を通しまして、それぞれの分野での大会の成果として顕在化していくとともに、次世代への有形・無形の財産としての継承につながっていくことをあらわしています。

今後とも、経済界を初め市町村や関係団体、学校、県民等が何らかの形で国際スポーツ大会にかかわることができ、一体感を醸成できる取り組みを検討しながら、国際スポーツ大会の力を活用したオール熊本態勢づくりに向けて計画的に取り組んでまいりたいと考えております。

済みません、戻っていただきまして23ページをお願いいたします。

国際スポーツ大会開催の効果を最大化するためには、飛躍につながる取り組みを大会終了後も継続したものとしていくことが重要と考えます。

例えば、スポーツ振興では競技力の向上、

競技人口の増加、地域振興では国際人の育成、観光振興では観光客の増加、受け入れ態勢の整備のほか、健康福祉ではスポーツによる健康増進などが上げられます。

このため、各種団体の意見を伺いながら取りまとめ、広く情報発信していきたいと考えております。

熊本が誇る地域資源の磨き上げや熊本ファンにつなげるための広報の展開などにより、外国人旅行者の誘致が進めば県民の国際感覚の醸成が図られ、国際人の育成につながることを期待しているものです。7月ごろには策定していきたいと考えております。

今後とも、行政と経済界、学校、県民などが一体となって、開催準備及び円滑な運営、さまざまな資源の磨き上げなどの検討を行っていくなど、しっかりと取り組んでまいります。

最後になりますけれども、2019女子ハンドボール世界選手権大会デンマーク大会の視察報告でございますが、続けて説明をさせていただきます。

お手元の資料をお願いいたします。カラー刷りの資料があるかと思えます。

まず、3ページをお願いいたします。

開催期間が、昨年2015年の12月5日から20日の16日間で行われております。

参加チームが24チーム、それから試合数が、全ての順位を決定するため88試合と多くなっております。

開催都市、試合会場は、4都市4会場で実施されております。女子の世界選手権がデンマークで開催されますのは1999年以来2度目で、2019年には男子世界選手権がドイツとの共同で開催されます。

4ページをお願いいたします。

大会スローガンは「ハート・オブ・ハンドボール」。2014年に同国で開催されました男子ヨーロッパ選手権と同じスローガンを採用しています。テーマソングも同名「ハート・

オブ・ハンドボール」。これは、デンマーク出身のアーティスト・シンディーが作詩作曲したものでございます。また画面になっていますが、プロモーションビデオにデンマーク代表の選手やスタッフも出演して盛り上げております。

5ページをお願いいたします。

ハートは、デンマーク国民にとってのシンボリックなものでございます。国章にもハートが描かれており、硬貨にも刻まれております。国立観光協会のロゴマークなどにも採用されており、街中에서도お店の看板やロゴマークにハートのモチーフが使われていたということでした。

6ページをお願いいたします。

大会を通じまして、大会スローガンのハートにかけまして、アート・オブ・ハンドボールというキャンペーンを展開していました。代表選手をモデルにしたボディーペインティング等々を利用し、盛り上げております。パンフレットやポスター、装飾などにも使用されており、会場の至るところでアートで大会を盛り上げたというところでございます。

7ページをお願いいたします。

代表選手5人の作品はヘアニングのハート美術館に展示されましたほか、チャリティーオークションにかけられています。チャリティーTシャツも販売され、その収益金は慈善団体に寄附されたとのことでした。

8ページです。

これは、各会場ごとに異なるキャラクターを配置したということでございます。ヘアニング、ネストベズ、コリング、フレゼリクスハウン、これは会場名でございます。

9ページをお願いいたします。

今大会は、国際ハンドボール連盟のパートナー6社のほか、10社のパートナーとスポンサー契約を結ばれておりまして、各スポンサーからはボールや遊具のほかさまざまなサービスが提供されております。

11ページでございます。

これからは、開催都市会場でございます。デンマークの4都市4会場で行われております。首都のコペンハーゲンを含めデンマークの大きな都市は含まれておりません。人口2万から5万人規模の町でございます。

4つの会場は、上のほうからフレゼリクスハウン、人口が2万3,000人、収容人員が2,800人の会場です。それから、その下がヘアニング、これは人口4万7,000人、収容人員1万2,500人、これはメイン会場の会場となっております。コリング、人口5万8,000人、収容人員5,000人。一番右側ですけれども、ネストベズ。人口2万3,000人、収容人員が2,800人でした。

12ページでございます。

これが、メイン会場ヘアニングでございます。大会会場がユスケバンク・ボクスン、収容人数が1万2,500人。昨年行われました男子ヨーロッパ選手権におきましても、メイン会場として使用されました。これまで有名アーティストのコンサートのほか、さまざまなイベントが開催されております多目的イベントホールでございます。

14ページをお願いします。

これは、ネストベズです。大会会場アリーナ・ネストベズ、収容人数が3,500人です。今大会に合わせて、アリーナが新設されております。

16ページをお願いいたします。

コリングです。大会会場がシュドバンク・アリーナ、収容人数が5,000人。これはデンマークリーグ所属の強豪K I Fコリングコペンハーゲンのホームアリーナということでした。

18ページです。

開催都市フレゼリクスハウン。試合会場はアリーナ・ノール、収容人数が2,800人です。今大会で最も小規模のアリーナでございます。

これからは、試合会場の施設を御説明いたします。

21ページをお願いいたします。

オフィシャル・ジュリー、これはゲーム運営に係る施設の総称のことです。コートサイドには、ゲームを運営するマッチオフィシャルのほか、電光掲示板4面ビジョンを操作したり、会場アナウンスや音響をコントロールするブースなどが並びます。

22ページです。

これが、今大会で最も目を引いた設備でございます。3会場で、4面ビジョンが設置してありました。コートから視線をずらさずに、さまざまな視覚的情報、例えば試合のスコア、タイムアウト時のイベント、プロモーションビデオの放映、それからスポンサーのコマーシャルなどが流れておりました。会場の雰囲気効果的に盛り上げるなど、大きな役割を果たしております。

23ページです。

ここには観客席の下に売店がございます。飲み物、軽食、大会グッズなどが購入できます。スタンドへの持ち込みも可能で、観客は飲食を楽しみながら試合を観戦することができます。

24ページです。

本大会には、850人を超えるジャーナリストが訪れています。各会場にはメディア席が用意しており、さまざまな位置のカメラで選手たちの動きを追っております。

25ページです。

試合終了後、選手がメディアのインタビューに応えるミックゾーン。これは、スポーツ競技場におきまして、競技エリアと控室や場外との間にある取材用の場所のことです。

26ページです。

会場には、コート付近にスタジオを設置しなければならないということになっておりま

した。メイン会場のヘアニングには2カ所のスタジオが設置してあり、試合会場をバックにテレビの中継や収録が行われています。会場横にはテレビコンパウンドが設置され、ここから世界中に全試合の様子が配信されています。

27ページです。

試合会場2階部分に、スポンサーやビップゲストをもてなすためのホスピタリティー施設が設置してあります。ここでは、試合を観戦しながら食事を楽しむことができます。レストランの規模、約800人が食事できる広さでございました。

28ページでございます。

これはホスピタリティー施設ですが、これはスポンサーやゲストのための個室をあらわしております。

それから、ファンゾーンでございます。

30ページをお願いいたします。

ヘアニングのファンゾーンでございますが、このファンゾーンはグランメッセより広いイベント会場に飲食物の売店や大会グッズなど販売コーナーのほか、スポンサーのブースなどが並んでおまして、レストランも設置してあります。試合観戦以外の時間をここで過ごすことができます。

31ページです。

アトラクションコーナーの写真です。これは、子どもから大人までが楽しめるアミューズメントが並んでおりました。

32ページです。

ファンゾーンではテレビ番組の中継や収録を行うスタジオがございまして、大会期間中にはさまざまなイベントが行われています。

33ページです。

エキストラチケットを購入すると、会場横にありますビップラウンジで食事を楽しむことができます。最大1,000席が用意されていたということでございます。

これからは、セレモニー・レセプションで

ございます。

35ページをお願いします。

開会式は、大会開幕日の2試合目と、デンマークの初戦である3試合目の間で行われました。IHF会長とデンマーク協会長の挨拶、出場国国旗の入場の後、デンマーク出身のアーティスト、オフィシャルソングの作詩作曲者でございますが、シンディーのパフォーマンスが行われています。

36ページをお願いします。

これは閉会式の様子ですが、閉会式では表彰式やオールスターチームなどの発表が行われております。次回のドイツ大会の引継式も行われています。

37ページです。

これは大会終了後のフェアウェルパーティーの様子です。選手やスタッフが参加して、今大会の健闘をたたえ合ったところの場面です。

これからは、輸送・宿泊の部分です。

39ページをお願いいたします。

各チームには、大会期間中、専用バスが用意されておりました。大会会場には、大会のナショナルパートナーから専用車が提供されています。各会場では、観客輸送のシャトルバスが運行されています。

40ページをお願いいたします。

ホテルにはプールやスポーツジムが併設されており、選手は自由に利用することができました。会議室は、各チームのミーティングルームとして開放されています。

41ページです。

選手はツイン、役員は主にシングルのルームを使用しております。食事は、一般客と同じ食事が提供されておりました。

これからは、大会運営スタッフです。

43ページをお願いいたします。

本大会では、子供からお年寄りまで1,200人を超えるボランティアが大会の運営に携わり、さまざまな形で大会の成功を支えており

ます。

44ページをお願いします。

会場の外には警察官が巡回して警備に当たっており、会場入場の際にはボディチェックや持ち物検査が入念に行われておったということです。直前に起きましたフランスでのテロ事件の影響もあり、普段より厳しい警備を行っていたとのことでございました。

これから、開催都市の取り組みでござい

ます。各開催都市の特徴的な取り組みを紹介しま

す。ネストベズとフレゼリクスハウンは独自の開催地ロゴを作成して、プロモーションを展開しておりました。

46ページをお願いします。

さまざまなプロモーショングッズが作成されていたほか、大会期間中いろいろなイベントが企画されておりました。

47ページをお願いします。

これはフレゼリクスハウンの会場にあるラウンジの一角で、プロモーショングッズのニット帽を編むボランティアの女性の姿を撮ったものです。1人で100個以上の帽子を編む方もいらっしゃるということで、ニット帽はチームの選手やスタッフにも記念品として贈られ、ボランティアも着用しており、アットホームな雰囲気を醸し出していたとのことでございました。

48ページをお願いします。

ネストベズでは、ボールを描いた道しるべや看板等が設置され、駅の構内にハンドボールのゴールがペイントされたりしております。

49ページです。

フレゼリクスハウンは、街の中心部から会場までの通りを、ハート・オブ・ハンドボール・アベニューとして道案内がしてあり、手づくりのオブジェで大会の歓迎ムードを盛り上げておりました。

視察を終えまして、日本の最終順位は19位でございますが、開催国のデンマークが6位という結果でございます。残念ながら、日本は19位ということでありましたけれども、この協会の発表によりますと、観客動員数が約15万人、参加ジャーナリスト数が850名、参加ボランティア数約1,200名、準々決勝、これはデンマークとウルメア戦でございましたが、その視聴者数が1,975万人に至ったということでございます。

53ページをお願いします。

デンマーク大会では、選手以外にもスタッフやボランティアなどさまざまな場面で女性が活躍しております。アート・オブ・ハンドボールのキャンペーンでは女性の美しさや強さを見事に表現されており、まさに今大会を象徴するすばらしい取り組みであったという評価を受けております。

54ページをお願いいたします。

ヘアニングのメイン会場には、ユニフォームを身につけた家族連れやカップルが訪れ、連日満員になっておりました。自国のチームを心から愛し誇りを持って応援するとともに、ハンドボールを心から楽しむデンマーク国民の姿がございます。

55ページをお願いいたします。

ラグビーワールドカップの視察では、求められる事項として以下の5点を上げました。

選手が、世界最高のパフォーマンスを発揮できる環境。観客が、世界最高のパフォーマンスを楽しめる環境。ファンが、街中でもワールドカップを満喫できる環境。世界中へ、ワールドカップの迫力と感動を伝える環境。オフィシャルパートナーによるワールドカップブランドを向上させる環境でございます。

ハンドボール世界選手権は、本県独自の単独の開催でございます。さらに多くの準備が必要になると思われます。

56ページをお願いいたします。

日本大会を開催するに当たり、3つのこと

を考えました。

まず、あらゆる場面で女性が活躍する大会にしたいということでございます。

2019年の熊本大会も同様に、女性が主役になる大会になるよう、大会運営、おもてなしのスタッフ、ボランティアなどあらゆる場面で女性が活躍する大会を目指していきたいと考えております。

次に、県民の意識や行動をさらにグローバル化する大会にしたいということ。これは、2019年がここ熊本に24カ国から多くの選手、観客が集まります。それは、異なる文化や風習に触れ、国際感覚を養う絶好の機会です。県民の意識をよりグローバル化し、それぞれの文化に合わせたおもてなしをすることで、熊本の魅力を高める大会にしたいと思えます。

3つ目に、県民が誇り、世代を超えて語り継ぐ大会にしたいということでございます。

アジアで唯一、世界選手権の男子大会及び女子大会の両方を開催した都市になります。その都市として、熊本の存在感を高めるということにしたいと考えております。

大会を通じた活動によりまして、スポーツの力を広め、地域振興やライフスタイルの向上を図りたいと感じました。

このような大会を成功させ、夢、希望の実現につなげてまいりたいと思えます。

以上で報告を終わります。

○溝口幸治委員長 それでは、以上で説明が終わりましたので、質疑に入ります。

まず先に、ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件について、質疑を受けたいと思えます。何かありませんか。

いいですかね、この前、意見交換もしたので。

それでは、次に2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について質疑はありませんか。



○荒木章博委員 今、デンマークの視察状況を書類上で見せてもらったんですけど、メイン会場、熊本大会ではどこを想定されているのか、ちょっとお尋ねしたいと思います。

○満原観光課長 メイン会場については、まだ決めておりません。

と言いますのは、メイン会場について、まだ、基準的にいきますと、大体観客が8,000人以上という形で組織委員会、IHFのほうから提案されております。そういったものができますと、どの会場で開催するのが一番いいのかということ、日本ハンドボール協会等とも意見交換しながら決めていくという形になるかと思えます。

○溝口幸治委員長 ハンドボールは、またこの次。

○荒木章博委員 ああ、わかった。

○溝口幸治委員長 済みません。じゃ、ちょっと今のは、その次にいきますので。

オリンピック・パラリンピック何かありませんか。なければ荒木先生の質疑を続けたいと思えますが。

はい。じゃ、荒木先生、続けてお願いします。

○荒木章博委員 そんなら、今言うたようなことで。今の質問。まだ決まってないということですね。8,000人以上のところというと、自動的に余り幾つもないでしょう。

○満原観光課長 本県でハンドボール会場として考えているところにつきまして、8,000人というところはございません。

で、どこの会場にするかということ、当然いろんな改修等々、仮設等も含めまして今後検

討して、メイン会場を決めていくことになるかと思えます。

○荒木章博委員 いや、決まってないというよりも、8,000人をするところはないじゃないですか、仮設をつくってもですよ。だから、そら実際わかっておるじゃなかですか。わかってないの。

○満原観光課長 委員おっしゃることは、多分97年大会のパークドームのことかと思いますが、パークドームは97年大会のときは1万人を仮設でつくって行っております。それ以外にも可能性は幾つかちょっとありまして、その辺で費用とか、それから12月に開催が行われるものですから、その辺で考えますと、97年大会は5月でございましたけれども、これメイン会場では、というかハンドボール大会におきましては会場の気温が18度から23度に設定するという形になっております。そうしますと、熊本県の12月の時点でするためには、会場の空調とかそういったものがございまして、そこでどの程度経費がかかるのかということも含めて、今後検討していかなければならない課題となっております。

○荒木章博委員 もちろん、やっぱりそういうことも鑑みて、今度の会場あたりも選び、また、それをやらないと、ある程度どこということはどうも幾つもないわけですからね、8,000人以上入るところは。そしてまた競技も。前回の試合よりも8試合多いわけでしょう。だから、その試合規定に合うような形でやっぱり取り組んでいかないかぬなというふうに思うんですね。

次に、委員長続けてあと2点質問しますが、文化の、やっぱりアートとかボディーペインティングなど、ハンドボールのアートと、こういうのも文化の統合をなされていたように今見受けたんですけど、熊本大会は

文化プログラムについてもどういふふうを考えていかれるのか、お尋ねしたいと思います。

○満原観光課長 文化のプログラムという質問でございました。

私ども、先ほどの御説明の中で申し上げましたけれども、ハンドボール、ラグビー、それからオリンピック・パラリンピックという大会を開催するに当たって、熊本県全体で盛り上げるということで、あるいはその後も続く財産ということで、いろんな取り組みが出てくるかと思えます。その中で、文化的なところも含めて考えていかなければならないとは思いますが、ただ何と言いましようか、今まで私たちが取り組んでなかったところというか、私たち自体が情報がなかったところもありますので、今後、関係者の方々と検討していきたいというふうを考えております。

○荒木章博委員 非常にわかります。だからハローのプログラムをこの前、部長が言われて、その中にオリ・パラの中もそうなんですけれども、ハンドボールもそうですけれども、そういった文化のプログラムということを非常に認知をしてなかったということで、あのとき僕は言おうかと思ったんですけど、自分の本会議があるもんだから、ちょっとそれ出せなかったんですけども、そういったものをしっかりして、もうハローの委員会あたりも開催を1回目はされているから、そういった中でやっぱりちょっと、聞かれるとアドバイスぐらいしたんですけど、そういったところもまた、その文化のアートも含めたやつも今度積極的に対応していただきたいというふう思うんですね。

もう1点、最後には、県民が楽しむようなファンゾーンですね、ファンゾーンはデンマークでは設けてあったということだったんで

すけども、ファンゾーンについては、熊本大会はどういふふうを考えておられますか、今後検討中ですか。

○満原観光課長 ファンゾーンにつきましては、日本ハンドボール協会等と検討していく場面が出てくるかと思えます。当然ながら、前々回の委員会のときにラグビーワールドカップの御報告をいたしました。ラグビーワールドカップにおけるファンゾーンの位置づけと今回のハンドボールのファンゾーンの位置づけというのは、少し違うのかもしれませんが。ラグビーの場合は多くの方に来てもらうということで、全くチケットを持ってない方も街中で楽しむゾーンでございました。ハンドボールの場合は、1日に4試合とか会場によっては行われますので、試合と試合の間で楽しむ部分とか、そういった役割が少し違っていたかもしれませんので、その辺も含めてどういったファンゾーンをつくるべきなのか、あるいはファンゾーン以外で、熊本県において熊本のおもてなしというのがどういったものがあるかというのを皆さんと一緒に考えてながら検討していきたいというふうに思っております。

○荒木章博委員 もちろん、だからそういう文化面も含めて取り組みあたりもやっぱり積極的に対応していただきたいと思っております。

それと最後に要望ですけれども、もう県、市で700万、700万、1,400万出資をして、今度25名、その取り崩しで、取り崩しという言葉は悪いかもしれぬけども、その予算で25名ですか視察に行かれています。そういった中で、部長も本当は行かれる予定だったけれども、退職されるからといって遠慮して行かれないだったかもしれません。行かれた方は、できるだけ引き続き、やっぱりこの何らかの形でこのハンドボールの委員会というか、ハン

ドボールのこの組織の中に加えていただかぬと、もうやめたりする人が、ぽんと今度はハンドボールの視察にこの前に行った。今度は違う課に行ってしまったと。そういうことでは、部長にこれ聞いていいか悪いか、要望なんですけどね、そこのところをもう何か3年たったらその方はどこかに行くというのは大体決まっておるごたるシステムがあるでしょう、県の中には。そういう配置のとき、だからあなたが課長だから私は行きましようと言ったって、私はもうそろそろで転勤の対象ですから、もう少し残る者にとか、それは言えないでしょうけども、そういうことも考えていただくと、せっかく現地で見たと視察がやっぱり役に立たないようではいけぬなと僕は思っている。僕は行かんだったけんひがんでおるじゃなかですよ。県の今海外視察というのは、4,000万円超しているんですよ。これとは別ですよ。ずうっと、蒲島県政になって4,000万超しているんですよ。だから海外視察ということも、議会ではものすごく難しいんですよ。議会では難しいんですよ。だから、やみくもに行くのではなくて何らかの、これは全体のことでですけどね、全体的にそういうのを考えていかないと、やっぱりおかしくなりますよ。だから、それ何年度は何だったとデータを持っていますけどね、言いませんけど、やっぱりきちんとしたものを、どうでしょうかね部長。

○高口商工観光労働部長 まず今回の国際スポーツ大会に関するいろんな視察に関しては、人事が絡むことですから非常に微妙な点がありますけども、なるだけ、私もことしでやめますので、やっぱりちゃんと3年半後あるいは4年後の大会につながるようなことを考えたつもりで、私ども職員の派遣とかについては、それなりに少し配慮させていただいているつもりではおります。

ただ、今後は組織もどんどん大きくなって

いきますから、その中でそれがどういうふうにかされるかは、これからはしっかりと我々考えていかなければならないというのは、私が今思っているところでございます。

それから、県としてのそういう海外との交流なり出張なり、それぞれでたくさんの、私も国際課を持っておりますので、さまざまな場面で出張とかの形で海外に行く場面もございますけども、1件1件についてそれぞれ必要である、必要最低限を確保しながらどういう対応をしたらいいかということについては、それぞれで私なりに判断させていただいて対応させていただいているつもりでございますし、今後もそういうことは、大切な県民からの税金を預かって我々やらせていただいておりますので、そこは今後もしっかりと検証しながら、その効果を見ながら、次のステップはどうするのかということを考えながら1個1個やっていくということになるのかなと私は思っております。

○荒木章博委員 よくわかります。来るときに本会議場で、この問題は私がきちんとデータを上げて述べたいと思います。

いろんな、やっぱり海外視察というのは大切なことだと思うんですよ。しかし、それ相応の目的と結果と、今後に引いていくということ、今、部長が言われたからもうこれ以上くどく言う必要はありませんけれども、今回はきちんとした人選をもってですね。だから、このデンマーク大会に行った方々も、やっぱりそのノウハウをうまく使っていただけるように今後お願いしたい。

私たち議会ももう1回選挙がありますから、そのときに行かれると言えませんが、これはわからんわけですから、私はまたあれですからね、立場がもう違う形になるだろうと思うんですけども、そういった意味でよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○早田順一委員 デンマークに視察に行かれて、いろんな発見もされてこられたんだろうというふうに思っております。

今見させていただいた限りでは、何といふかなショータイム的な感覚でちょっと見させてもらったんですけども、その中で、その場をにぎわせるために大きなパネルですよ、モニターを4面にしたりとかやっていますけども、例えばデンマークでのその予算配分というか、そういうことも聞いてこられたんでしょうか。例えば、こういう会場ではその市町村というか行政がお金を出すのかスポンサーがお金を出すのかとか、そういうところをもし聞かれたなら教えてもらいたいんですが。

○満原観光課長 早田委員の御質問、経費の関係だと思えます。その辺につきましては、今回の視察では聞いておりません。

ただ今後、2017年にドイツ大会がございます。その大会にまた日本ハンドボール協会とIHFとの視察等々もございます。その辺で意見交換をすることで、その辺の数値が、経費等の数字がわかってくるものかと思えます。

○溝口幸治委員長 いいですか。ほかにございませんか。

○中村亮彦委員 視察の報告の中で非常に、会場の中の施設のことについて結構紹介がいっぱいあったんですけども、周辺の整備について聞きたいんですけども、特に輸送ということに対して、観客の方をお迎えすることに対してシャトルバスのところがちょっと出ただけみたいな感じだったんですけど、例えば駐車場の整備とか、渋滞を引き

起こしてなかったかとかいうことと、あと、やっぱりこのデンマークそのものが車社会なのかどうかというのもちょっとわからないんですけども、あるいはその会場がもしかしたら鉄道の駅の近くにあったのかもしれないし、その周辺のことについてちょっとお聞きしたいんですが。

○満原観光課長 今回の視察報告の中では、各会場等の混乱といたしますか、等々はなかったというふうに聞いています。公共交通機関も結構な部分で発達しているということです。

冒頭のところで御説明しましたけれども、人口が非常に小さい規模の、いわゆる郊外にございますので、その辺で駐車場が足りないとかそういったのはなかったというふうに聞いております。

○中村亮彦委員 前回のラグビートップリーグのときも、あの渋滞ですので、例えば熊本でやる場合に駅の近くに会場があるわけでもないし、シャトルバスでどれぐらい対応ができるのかということもありますけれども、この周辺の整備について、例えば駐車場が足りない、まあ道路事情もあると思えますけれども、駐車場が足りないということになりますと、非常に熊本車社会ですので、車で来られる方はたくさんおられると思うんですね。

例えば臨時の駐車場をこれから先設けるとか、もしくはお金かかるかもしれませんが、常設の駐車場をこれからまた整備するとか、その辺のところ、先の話かもしれませんが、どのようにお考えかお聞かせ願います。

○満原観光課長 快適なといいますか、大会を成功させるというのは、当然その大会運営の中で、いわゆる試合とかそういったものが出てくるんでしょうけれども、やはり私どもも、そこに来てくださいますお客様というこ

とを考えてやらなければならないと思っております。97年大会のことも経験ございますけれども、その後の状況等も変わっております。

これまで、ラグビーもそうですが、ハンドボールも視察を行っております。それから、ラグビーのトップリーグも経験いたしております。また、ロアッソなどのサッカーの試合のときも経験いたしました。

そういった経験を踏まえまして、来年度以降になりますけれども、そういった運営の計画の中で十分検討してまいりたいというふうに思っております。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○氷室雄一郎委員 課長、この組織の推進体制の強化ということで新たに予算を組まれておるんですけど、これは人の配置の分ですか、1,000万ぐらい組まれておりますか。

○溝口幸治委員長 それはハンドボールの話じゃない、全体の。

○氷室雄一郎委員 じゃ、後で。

○西聖一委員 ラグビーの分は、国際大会で日本も組織があって、いろいろ中央との関係の中で動いていると思っておりますけど、ハンドボールの場合については少し手づくり感というイメージがあるんですけど、これから運営していく中でやっぱり規格それからいろんな施設整備に当たって、コンサルタント丸投げみたいになってしまうのか、またそういう企業関係が、県内の企業とか業者を代理していくのか、何かそんな考え方は少しラグビーとハンドボールは違うんでしょうか。ちょっと。まだ具体的にはならないんでしょうけども、私としてはそのコンサルタントに丸投げしてしまったら何か残念かなという気がするんで

すが。

○満原観光課長 ラグビーとハンドボールにつきましては、主催の関係が違いますので、それを一律に申し上げることはできないかと思っております。

ラグビーにつきましては、当然ラグビーはワールドラグビー、世界の部分とそれから主催する日本の組織委員会等々がございまして、そことの関係で決まっていくというふうに思っております。

ハンドボールにつきましては、私どもの熊本県が単独で行います。その中でこういった大会にするかというのは今後決めていくということになりますけど、当然、私どもも熊本県の大会をどうしようというのは、これからその基本的なものを皆様方と話ながらやっていくということになっております。これを丸投げというところはなかなか難しいんですけども、これどれだけ素晴らしい大会にするかというのは、いろんな方の英知を集めながらやっていくべきものだと考えております。

○西聖一委員 そういう話し合いの場というのは、今組織をつくっていく、そういう中でいろんな意見が反映されるような協議会というか組織がもうできているというふうに取り扱っていいんでしょうか。また、それから見直すとか。

○満原観光課長 これから決めていくものと考えています。

○西聖一委員 わかりました。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○高野洋介委員 ハンドボール、私非常に危機感を持っているんですけど、ラグビーは先ほど課長がおっしゃいましたように、日本全国

各地でやります。ハンドボールに関しては熊本大会だもんですから、デンマーク大会はデンマークの中で4都市ですよ。熊本の場合はそれより小さくなって熊本独自でやるんですよ。ですから非常に私危機感があるんですが、今年度はある程度、視察とかそういうのでいいんでしょうが、来年度以降もう少しこの委員会の中でも、委員の皆さんがイメージできるような議論を深めていかないと、ちょっと時間的に厳しい部分があると思いますし、それぞれの国際大会のオープニングとか最後のフィナーレとか、非常に今いろんな独自のやつで予算も結構かかると思うんですよ。それで施設関係のところもあるし、それぞれ施設がどういう選定されるかわかりませんが、そこになったところは、それなりのまた準備をしなければいけませんし、その手を挙げて、いや、うちは新たに体育館なりアリーナを建設しますというところもあるかもしれませんが、もう少しスピード感を持って選定あたりはしていかないと、一、二年でできる問題じゃないですよ、施設整備は。それが決まって初めて、先ほど中村先生がおっしゃいましたような駐車場の整備だとかそれに入ると思うので、でないで警備的なもの問題とかも出てきますので、ある程度、来年度以降の早い時期にその会場の選定をせぬとスタートラインに立てないんじゃないかなと思います。その付近どうお考えですか。

○満原観光課長 確かにまだ明確に、どこの自治体と組んで会場するというのは決まっておられません。

現在のところ、昨日の新聞にも出ておりましたけれども、97年大会のときにも人的負担と各開催地には大会運営仮設経費も含めたとの御負担をいただいております。そういった部分で、こういった形になりますよ、こういった負担が出てきますという話を、今手を挙げているところには自治体と話をいたしてお

ります。

ただ、まだそういった部分につきまして見えないところがあったりしております。といいますのは、日本ハンドボール協会それから世界ハンドボール連盟と今後承認を得ながらやっていく必要がございます。そういったところがあるものですから、ただ、これは28年にかけて話が進むというふうにハンドボール協会からも話がありますので、その辺はできるだけ早くこちらのほうからも早く決めて準備にかかっていくものだろうと思います。かつ先ほど西先生それから中村先生からも話がありましたように、会場地だけでなく開会式にも閉会式にもいろんな部分が97年大会と変わってきているかと思えます。ハンドボールのみならずスポーツに対する見方が大分変わってきておりますので、その辺を含めてすばらしい大会にしなければなりませんので、できるだけ早くスピード感を持ってやっていかなければ、当然これまで申しわけなかったと思います。できるだけ早く、スピード感を持って頑張っていきたいと思っております。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。よろしいですか。

じゃ、3つ共通して、先ほど氷室先生おっしゃったんですが。

○氷室雄一郎委員 ちょっと内容だけ、人的な配置の。

○溝口幸治委員長 組織のことについて。

○青木人事課長 人事課でございます。

推進体制の強化ということでおっしゃられましたけれど、2つあるかと思えます。

人事課が所管しておりますのは当然内部組織の話でございまして、県庁の組織をどうするかということでございます。

今年度、観光課内に国際スポーツ大会推進班4名を年度に当初置いて、年度途中8名にふやして、さらには来年度4月1日をめどに組織改正を行い、ここで人員を含めて大幅な拡充を図りたいというふうに考えております。

もう一つは、県庁とほかの市町村あるいは関係団体との関係かと思えます。この点については、商工観光労働部を中心に今検討されていると。

人事課で答える範囲は、ここまででございます。

○氷室雄一郎委員 一応そのために予算を組んでおられるということですね。先のごことは、今難しい問題があると。

○溝口幸治委員長 満原課長、じゃ補足も含めて。

○満原観光課長 今、人事課長のほうからありましたように、組織の拡大を予定しながらやっております。この分につきましては、当然、人間がふえてくれば組織等々の準備というのがございますので、その辺を含めて今議会に予算を上程させていただいております。御審議よろしく願いいたします。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。いいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 なければ、質疑はこれで終了いたします。

次に、閉会中の継続審査についてお諮りいたします。

本委員会に付託の調査事件につきましては、審査未了のため次期定例会まで本委員会を存続して審査する旨、議長に申し出ることとしてよろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 異議なしと認め、そのようにいたします。

その他に入りますが、何かございませんか。

（発言する者なし）

○溝口幸治委員長 なければ、本日の審議はこれで終了いたします。

午前10時50分閉会

○溝口幸治委員長 ここで、本年度最後でございますので、一言御挨拶をさせていただきます。

昨年6月に委員会設置されまして、委員長を務めさせていただきました。また、田代副委員長を初め委員の皆様方にも御協力をいただきまして、まことにありがとうございます。

特に執行部におかれましては、初めての委員会ということで、どこの担当が対応するかということも含めていろいろ御配慮をいただいたと思います。視察や審議等々、そしてラグビーワールドカップ大会それからハンドボール大会でも、海外に行っていた職員の方の皆さん方もいらっしゃいます。

これから、まさに勝負だというふうに思っております。我々も、ここではしっかり応援をしていこう、大会を成功させていこうという思いで、それぞれが発言をしておりますので、厳しい意見もあるかと思いますが、みんな2019年そして2020年に笑ってその年を迎えられるように、そのことをイメージしながら、また次の委員会でも頑張っていたきたいというふうに思っております。

特に海外に行かれた方、ここに数名いらっしゃいますが、職員の方の皆さん方はそのまま残留していただいて、きっちり役目を果たしていただいて、退職された方もボランティアスタッフとして戻っていただく、そのこともしっかり約束をしていただきたいというふうに思っております。

国際スポーツ大会推進特別委員会委員長

それでは、1年間本当にありがとうございました。  
お世話になりました。（拍手）

それでは、田代副委員長から御挨拶をお願いいたします。

○田代国広副委員長 一言御挨拶をさせていただきます。

約8カ月間という短い期間でありましたけれども、溝口委員長さん初め委員の方々の御協力によりまして、無事に副委員長の役を終わることができました。本当にありがとうございました。

この委員会を通じて感じたことなんですけれども、表現は悪いかもしれませんが、ラグビーにしるハンドボールにしる、決してメジャーとは言えないようなスポーツのような気がいたしております。それがゆえに、協会あたりの体質も決して磐石でないような気がいたすわけございまして、そういった中で大会を成功させるために、やはり委員会はもちろんそしてまた皆さん執行部の方々とも、なお一層の今後の対応の仕方が非常に大事だなということを感じたところでございます。

私は、恐らくこの委員会はこれで終わるかもしれませんが、これから先与えられた残された時間は決して多くはないと思いますので、委員会ともどもさらなる研鑽を積み重ねまして、本大会がしっかりと成功しますことを心から期待いたしまして、簡単ですけども御挨拶とさせていただきます。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。（拍手）

○溝口幸治委員長 それでは、これを持ちまして本日の委員会を閉会いたします。

午前10時52分

熊本県議会委員会条例第29条の規定によりここに署名する